

2013年度 活動報告 & 2014年度 活動計画

ヒマラヤ植林 100 万本まで秒読み！2014 年夏、いよいよ達成します。皆様のご協力とご支援をお願い致します。
森林資源を使った地場産業も大きな成果を上げ始めました。女性達の顔に輝きが出てきました。



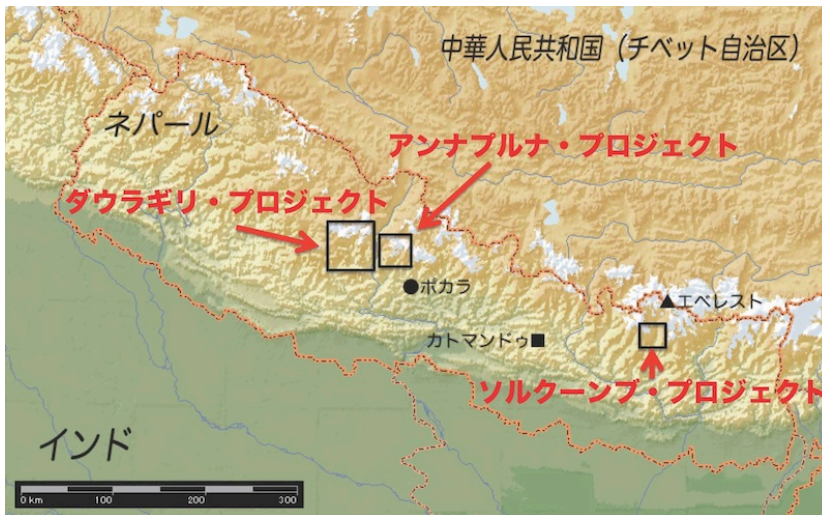
ヒマラヤラクサの繊維から織地を生産しています（サリジャ村）

ヒマラヤ保全協会とは：世界の屋根・ヒマラヤの大自然を未来へつなぐ国際環境 NGO。ヒマラヤ保全協会（IHC：The Institute for Himalayan Conservation）は、ネパール・ヒマラヤにおいて、地域住民が主体になった植林事業に取り組んでいる国際環境 NGO です。これまでに、ヒマラヤ山麓にのべ約 97 万本の植樹をしてきました（2013 年 6 月現在）。

1. 2013 年度 現地活動報告

1.1. 生活林づくりプロジェクト -約 6 万 3 千本の植樹を達成！-

2013 年度は、あわせて 6 万 2,963 本の苗木を植樹しました。植林地域と苗数内訳は、ダウラギリ地域（ドバ村 2,462 本・ベガコーラ村 10,547 本・ダグナム村 4,398 本・ジーン村 5,818 本・バランジャ村 6,774 本）、アンナプルナ地域（サリジャ村 7,964 本）、ソルクーンブ地域（ジュビン地区カリコーラ村約 25,000 本）でした。



1.2. ダウラギリ・プロジェクト

ダウラギリ・プロジェクト(5年間計画)の3年目となった2013年度はネパール西部ダウラギリ地域において、伐採され荒廃した土地へ、引き続き植林活動を行いました。森林保全委員会を立ち上げ、【現状把握→苗畑づくり→育苗→植樹→振返り→更なる未来への計画づくり】住民を主体にして、推進しています。2013年度は、クルミ等の果樹等を加え、苗畑の拡充を推進しました。また、水不足が問題の村に雨水貯水装置を配備しました。これにより、乾季の水分補充が確保され、遠方からバケツで水を運ぶ女性達の労働が大幅に軽減されました。

◆女性の収入向上プロジェクト

地場産業の立ち上げの要請が出ていた村では、現地で得られる森林資源を徹底的に現地調査し、各村落の状況に合う地場産業を提案、技術指導を推進しています。(現在、ヒマラヤイラクサの繊維を利用した織物事業、ヒマラヤジンチョウゲの繊維を利用した紙漉き事業の技術指導を推進中)。2013年度はマーケティングを最大の重点にてこ入れを図り、女性生産者同士の協同関係を構築しました。その結果、現金収入が大幅に上昇し、女性たちの表情に輝きが出てきました。他、養蜂事協同業も支援し、大きな成果が出始めています。

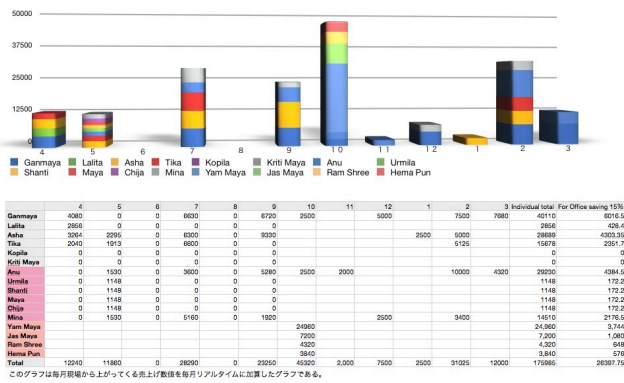


ヒマラヤイラクサを利用した織物事業(標高約 2,200m 地点)



ヒマラヤジンチョウゲを利用した紙漉き事業(標高約 2,200m 地点)

2013年度アロー織物事業 収入推移現状



2013 年度 織物事業の女性個人別収入推移



400 人の女性団体と協働関係構築



改良箱に取り組み養蜂事業化

丸太をくりぬいた古い巣箱を使い趣味でやっていた養蜂が、改良箱に切り替えトレーニングを重ねた事で、村の養蜂事業に、発展しています。

1.3. ソルクーンブ・プロジェクト

ネパール東部、ソルクーンブ郡カリコーラ村の苗畑で、将来材木として使える松 23,000 本、ソウル 1000 本と、薪や飼料木として使えるウツティス 3000 本を育成し、そのうちの約 2 万 5,000 本の苗木を植樹しました。ソルクーンブ・プロジェクトは、公共の土地への植樹をほぼ終了するため、2014 年の植樹にて終了しますが、最終年 2014 年度には 3 万本以上の苗を育成する準備をしています。

2. 2013 年度 国内活動報告

2.1. 国内交流・理解促進事業

第 21 回ネパール・ヒマラヤ山岳エコロジースクールを 2014 年 2 月 20 日～3 月 4 日の 13 日間開催しました。日本全国からお集り頂いた 10 名の皆様に、当会の事業の見学、果樹の植樹等をおこないながら環境保全活動の体験をして頂きました。現地の人達と交流し、国際協力の観点からの相互理解が深まりました。



☆出会う・楽しい・思い出☆

2.2. 広報・地球市民学習事業



このほか、ホームページやブログ、フェイスブックなど、インターネットを活用した広報活動を充実させました。地球市民講座「ヒマラヤワークショップ」を3回（初回からは6回）開催し、ヒマラヤ保全協会のこれまでの活動を総括し広報しました。

JICA 駒ヶ根訓練所設立35周年記念セミナー、長野県や東京都の中学校や大学の国際協力課でこれまで現地活動を通して学んだ事や、異文化圏の中での問題解決の手法を講演しました。また、現地ネパールでは、首都カトマンズで、「日本・ネパール子供の絵展覧会」という子供の国際交流を目的としたプロジェクトで現地の教育機関の教師、生徒に環境保護という観点からプレゼンテーションをしました。

2014 年度 活動計画

2.3. 生活林づくり：いよいよ2014年は、【ヒマラヤ山麓植樹100万本】を達成します！



◆ 2014 年度は約6万本の生活林づくりを推進します。ダウラギリ地方、ソウルクンブ地方の荒廃した土地に植樹し、環境保全を推進します。また、女性達の収入向上事業は、持続できる【自立運営】を実現させるための最終指導に突入します。

◆ 共助・共存思想【里山：SATOYAMA】の紹介。
ヒマラヤ山麓植樹100万本達成をする2014年は、6月5日の世界環境デーに現地事業村で記念会を開催し、ネパールの森林局を、はじめ政府関係の方々、内外の方に[里山：SATOYAMA]イニシアティブという日本ならではの、自然と人間との共助・共存の取り組みを紹介します。

◆ KJ法の普及
ヒマラヤ保全協会の創立者、文化人類学者の川喜田二郎の考案したKJ法を内外に紹介し、現場での状況分析→問題解決→打開策発想まで導くノウハウを体験して、国際協力の現場で活躍出来る人材の育成に貢献します。

謝 辞

皆様のご支援、ありがとうございます！

2013年度は、ネパール・ヒマラヤに6万3千本の植樹をすることができました。ヒマラヤ環境保全活動の推進とともに、地域住民の方々の生活改善、収入向上活動に貢献して下さったサポーターの皆様のご厚意に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

2014年9月3日発行 編集・発行所 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-5-7 シグマロイヤルハイツ 403
Tel/Fax:03-5350-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp <http://www.ihc-japan.org>